

青葉山キャンパス施設の応急危険度判定活動

—2011年東北地方太平洋沖地震からの復旧を目指して—

都市・建築学専攻 リハビリテーション工学研究室

松川和人



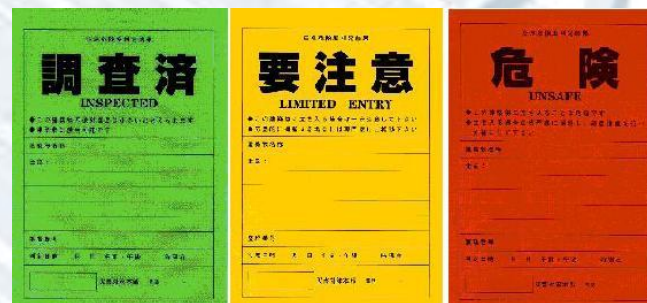
1.活動の概要

工学部がある青葉山キャンパスは、2011年東北地方太平洋沖地震により、大きな被害を受けました。そこで、本研究室を中心に、青葉山キャンパス施設の応急危険度判定活動を行い、大学施設の復旧に貢献しました。

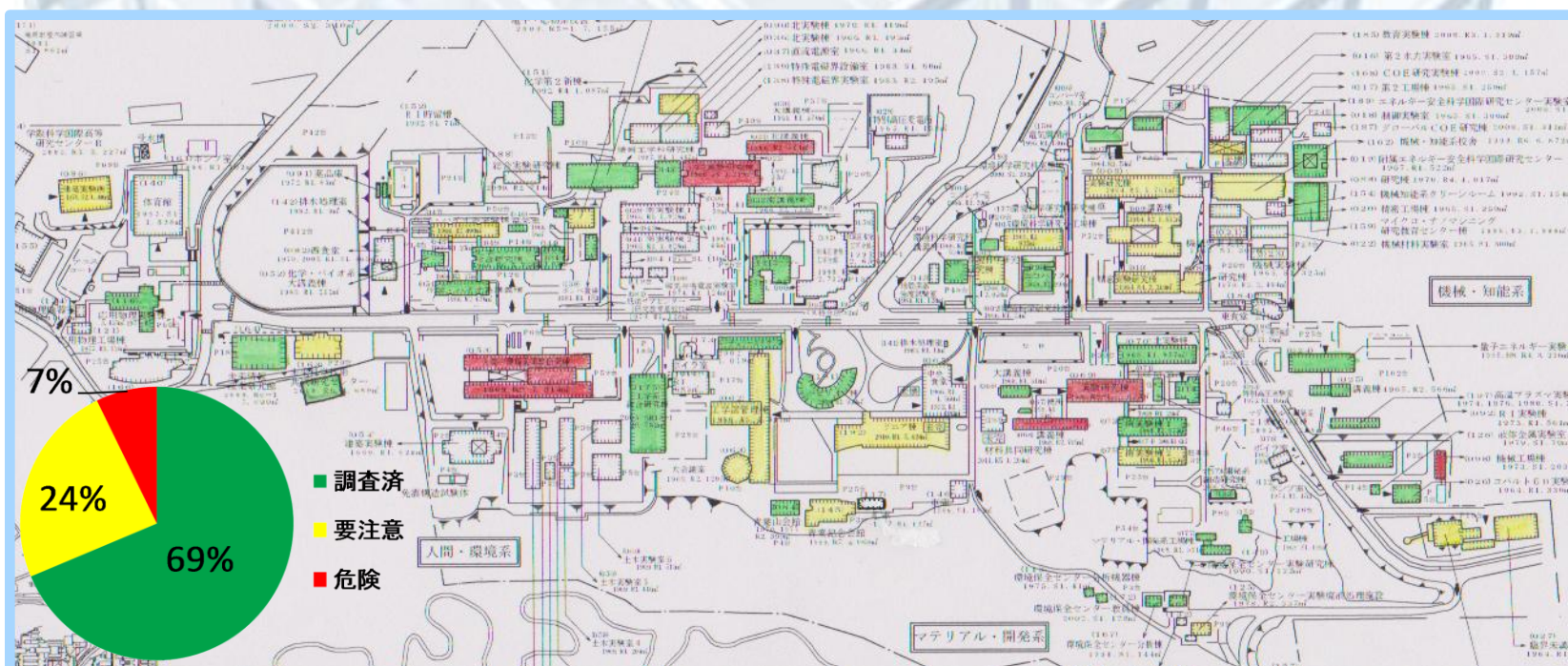
- ・ 期間:2011年3月14日～3月29日(再判定を含む)
- ・ 対象:青葉山キャンパスの建物83棟

2.応急危険度判定とは?

余震などによる2次被害を防止するため、建物の危険度を応急的に判定する活動です。「余震に対する安全性」「落下物による危険性」などを専門的な知識を生かして調査し、建物に立ち入ることが出来るかを判定した後、右のようなステッカーを貼ります。



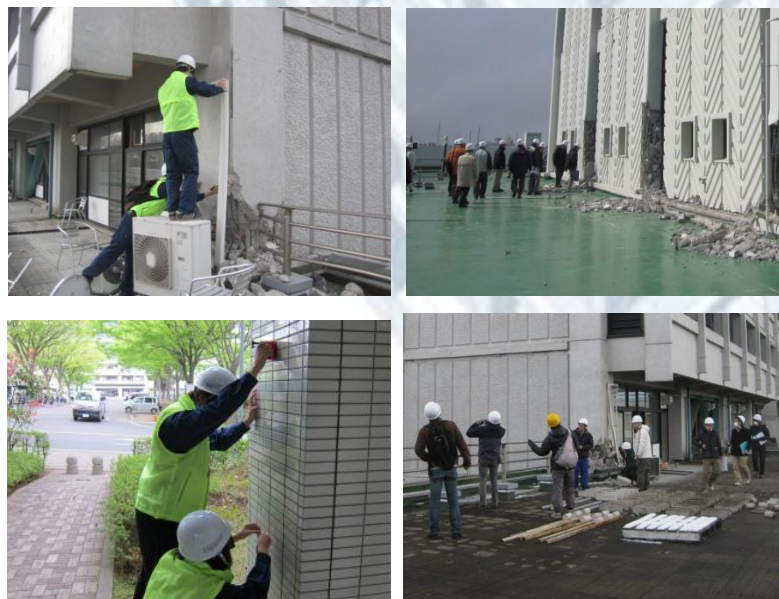
3.応急危険度判定結果



応急危険度判定の結果、24%の建物が**要注意**、7%の建物が**危険**と判定されました。この後は、判定結果に基づいて「調査済」の建物はすみやかに使用が行われ、「要注意」「危険」の建物は必要な復旧対策等のアドバイスを行うなど、青葉山キャンパスの教育・研究活動の復旧に貢献しました。

4.応急危険度判定活動の様子

建築系教員の他、リハビリテーション工学研究室から多くの学生が参加しました。参加者全員が被災者でもあるという厳しい状況の中、大学の復旧のために全力を尽くしました。



5.応急危険度判定活動に対する感謝状を頂きました!

こうした活動は、他の学科の先生方からも大変感謝されています。



地震発生から2ヶ月後の5月11日には、工学研究科長から応急危険度判定活動参加学生に対して、**感謝状の授与**が行われました。

リハビリテーション工学研究室からは8名が感謝状を授与されました。